

TOHO ASEAN REPORT

【とうほうアセアンレポート】

2023年9月号

Contents

☆ アセアン企業インタビュー

MITSUEI (VIETNAM) CO.,LTD.

General Director 安部 泰宏 様

☆電力について

ベトナムレポート:ベトコムバンク駐在 若林遼

タイレポート : 法人コンサルティング部

(前カシコン銀行駐在) 瀬谷 純一

- ☆ ASEAN ニューストピックス
- ☆ 東邦銀行の海外事業支援に係る連携・業務提携先

本レポートに掲載されているデータや資料は情報提供を目的としたものであり、 当行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成したものではあ りますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。具体的に法律 上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談く ださいますようお願い致します。



すべてを地域のために

東邦銀行

アセアン企業インタビュー

MITSUEI (VIETNAM) CO., LTD.

~ベトナムで衛生に対する意識改革を~

企業概要

代表者:安部 泰宏(あべ やすひろ) General Director

所 在 地: ROAD7.TRANG BANG INDUSTRIAL PARK.AN TINH .TRANG

BANG ,TAY NINH PROVINCE, VIETNAM

事業内容:ハウスホールド製品製造業

設 立:1995年2月

泰宏 General Director MITSU PLASTIC & CHEMICAL CO., LTD 2003年7月 ミツエイ㈱入社

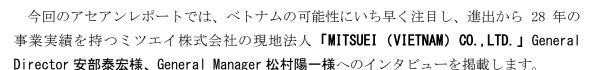
2009年11月 MITSUEI (VIETNAM) 2009年11月

2011 年 7 月 ミツエイ(株) 取締役就任

MITSUEI (VIETNAM) CO., LTD

従業員数:約40名 2018年3月 ミツエイ㈱ 常務取締役就任

親 会 社 : ミツエイ株式会社 (福島県いわき市) 2021年3月 ミツエイ㈱ 専務取締役就任



ミツエイ株式会社様は福島県いわき市に本社工場を構えるハウスホールド製品(家庭・ 業務用の洗剤・漂白剤など)のメーカーです。進出当時から変化を続けるベトナム事業の 現在地や今後の展望についてお話を伺いました。

■作るための「生産工場」だけでなく、その先を目指していく

一事業内容について教えてください。

【安部GD】

当社では主に液体、粉末の漂白剤や液体クレンザー、洗剤、トイレクリーナーなどの製 造、販売を行っております。また、それらの容器も自社で製造することで、低コストと高 品質の両立が可能となっています。これは日本とベトナムの両国にて行っております。

ベトナム工場では、当社の主要製品の一部を製造し、その大半を日本へ輸出しています。 現在のベトナム工場に求められるのは「生産工場」としての役割ですが、今後は、アセア ン展開の足掛かりとして、現地で販売を行うための営業活動にも力を入れていきたいと考 えております。

■日本でもベトナムでも同じ設備で同じ品質を

一この地における強みと感じているものは何ですか。

【安部GD】

ベトナム法人とはいえ、主に日本向けの製品を製造しておりますので、常に日本品質を 意識した生産が必要です。日本と同等の設備を使用しつつ、容器の製造まで自社にて行い コストを抑えながら品質を維持することで、現地企業並みのコストで日本品質の商品を製 造することが可能となっています。







<ベトナム工場の外観>

<クレンザーの製造過程 充填の様子>

■当時の主流は中国 縁があってベトナムへ

一ベトナムのきっかけを教えてください。

【安部GD】

当時は為替が円高に振れていたこともあり、海外生産へのシフトが話題になっていました。そのような中、当社製品の一部は製造時に粉末や塩酸等の取り扱いがあることから、工場環境及び他製品製造時に影響があることを懸念していました。また、日本工場では手狭に感じていた中、為替相場の影響もあり、海外にも生産拠点があったほうがよいだろうと考え、海外工場設立の検討を始めました。

当時は中国進出が主流となっていたのですが、知人の紹介により候補に挙がっていたベトナムを実際に見て、これからの可能性を感じたことから、ベトナム進出を決断しました。 この決断が結果的には良かったのではないかと、今では思っています。



<容器のブロー成型機>



<完成したトイレクリーナー容器>

■適切な人員配置でミツエイスタイルを踏襲

一事業行う上で課題と感じていること、気を付けていることはありますか。

【安部GD】

進出当時は貸工場で、日本人社員も常駐せずに稼働していたこともあり、品質を安定させることが難しいという課題がありました。日本で販売する製品を作る以上、日本のミツエイと同じフローで管理しなければ、品質維持は難しいと感じることが多くありました。

転機となったのは、現在の場所に自社工場を構えた 2011 年頃です。それまでは外部の 方を責任者に任命しており、ミツエイの文化を踏襲することが難しく、効率の悪さを感じ ることが多々ありました。現在は、本社で多くの経験を積んだ人材を責任者として任命す ることで、指示系統が明確になり、円滑な意思疎通が行えるようになりました。 特に現在、ベトナムに駐在いただいている松村GMの赴任後はその部分が改善できているなと強く感じています。

【松村GM】

工場側では人事面において、スタッフの確保に気を配るようにしています。ベトナムは日本と比べ退職へのハードルが低く、人材難に悩む企業が多く存在します。そのため弊社では毎年の人事評価制度を明確化し、評価に応じた昇給率をしっかりと示すことにより、従業員の働くモチベーション向上を図っています。また、評価を行う際にはお互いのコミュニケーションを大切にして、フィードバックを行うことで各人間の公平性を保てるように気を付けています。これにより人材面に頭を抱える必要がなく、スムーズに事業が運営できるようになりました。



<工場概要について説明を行う松村GM>



<高品質のカギとなる検品作業の様子>



<社内レクリエーションの様子>



<食堂で昼食をとる従業員の皆さん>

■厳しい3ヶ月間の共同生活を受け入れてくれた

一コロナ禍によるロックダウン時の状況を教えてください。

【松村GM】

各国で新型コロナウィルスへの対応が日々変わっていくので、日本とベトナムの状況を 互いに把握するために、ミーティングでの情報交換は欠かさず行うようにしていました。

ロックダウンは 3 か月にわたる長期間でしたが、工場のスタッフ全員が本当によくやってくれました。地域間の移動が制限されていたので、工場を稼働させるには工場に寝泊まりしてもらわなければならず、実際に 37 人のスタッフのうち、23 人が泊まり込みで働いてくれました。普段より少ない人数で稼働している分、残業をして、欠品を発生させずに一生懸命対応してくれた、スタッフの皆さんには非常に感謝しています。

一方で間接的なコロナの影響にはなりますが、中核人材(マネージャークラス)の退職があったことは痛手でした。ベトナムに限ったことではないのですが、スタッフそれぞれ家族で過ごす時間が増えたことによって、今後の生活を考え直すきっかけになったのだろうと思いますので、これは仕方ないことだなと思うようにしています。





<ロックダウン時の様子 左:工場内に設営した宿泊ブース 右:寝食を共にする従業員の皆さん>

■アフターコロナを迎えた今

一今後の展望について教えてください。

【安部GD】

当社を代表する製品として台所の漂白剤がありますが、ベトナムでは漂白文化が浸透しておらず、一般家庭で使用されることはまだ珍しいです。しかし、コロナ禍を経て、人々の衛生観念が高まったことでニーズは生まれると考えています。今後は、販売店さんの協力も得ながら、一緒になってこの文化を拡げていきたいと思っています。

また、これらの製品は販売単価が高くないので、日本品質の高付加価値商品であってもベトナム人が日常的に手に取りやすい価格での販売が可能です。この強みを持ってベトナムや近隣諸国への販路を拡大し、人々の生活の発展に衛生面から貢献したいと考えます。

【松村GM】

これまでは日本への輸出がメインでしたが、昨今の国際物流の経費高騰もあることから 今後はベトナム国内での販売にも注力します。ベトナムは品質面から外国ブランドが好ま れる傾向があり、また都市部ではショッピングセンターやスーパーなどの商業施設も浸透

していることから、大いに期待できる市場だと思っています。現在は主にホーチミン市での販売がメインですが、今後は 国内全域に広げたいと思っています。

また、日系販売店だけでなく現地資本の スーパーやドラッグストア、隣国カンボ ジアをはじめとするアセアン各国への営 業も強化し、販路拡大すべく行動を開始 しております。



<ベトナム現地小売店に陳列される当社商品>

ベトナムレポート 「ベトナムの電力事情について」

1. はじめに

ベトナムは社会主義国という背景もあり、電力は国営企業のベトナム電力総公社 (Vietnam Electricity: EVN)が発電から小売まで一貫して運用する、独占状態となっています。現在は発電部門と小売部門において自由化が進み、特に再生エネルギーによる発電においては国内外から民間企業の参入があるものの、発電以降の送配電インフラを EVN 関連企業が占めていることから、実質的には EVN による独占に近い状態となっています。

今回はベトナムが経済成長を続けるうえで重要なインフラである「電力」について、 レポートいたします。

2. 発電状況、供給状況について

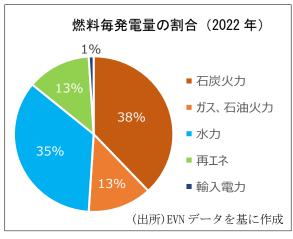
2022 年の総発電量 272TWh (テラワットアワー) のうち、発電種別では火力(石炭、ガス石油)が 51%と最も高く、続いて水力が 35%となっています。火力発電への依存度が高い

のは日本と同様(日本は約70%程度)ですが、 注目すべきは水力発電の割合です。

ベトナムは紅河・メコン川などの巨大河川を多く有していることから、豊富な水源を活かした水力発電に注力しています。 日本の水力発電割合は6%と言われており、ベトナム特有の熱帯気候による豊富な降雨量や山岳地帯ゆえ水力発電に適した地形も相まって、自らの環境に適用した発電形態としているといえるでしょう。

クリーンエネルギーへの貢献度で考える と、ベトナムは水力、再エネで総発電量の 約半数を賄っていることから、日本よりも 優秀な国と言えるかもしれません。

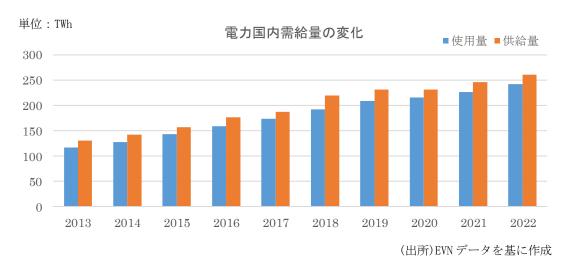
しかし、近年はこの水力発電への過度の 依存が、乾季における降雨不足によるダム の水量減少を原因とした電力不足を引き起 こしていると言われており、特に 2023 年 は、人々の生活や企業の生産活動に大きな 影響を及ぼしました。





【東南アジア最大の水力発電所 ソンラ水力発電所】 (出典)EVN ホームページより

3. 電力不足と停電について



上記グラフの通り、ベトナムでは急速な 経済発展に伴い、電力需要が増加していることから、今後の安定供給が大きな課題となっています。特に工業地帯が集中する北部地域 (首都ハノイ、港湾都市ハイフォンがあるエリア)において、降水量が少ない5月~7月は、ダムの水量減少と、猛暑により電力供給が逼迫し、毎年のように節電要請や停電を行わざるを得ない状況が続いています。



【水量が減少するソンラ水力発電所ダム】 (出典)EVNホームページより

北部の工業団地には福島県の製造業も多く進出していますが、特に 2023 年は猛暑による電力需要の増加などから例年以上に電力不足が深刻化し、ハノイ市街地や日系製造業が入居する工業団地でも数日間の停電による工場の操業停止を強いられました。停電は EVN からの事前通告により対策の時間を確保できる場合もありますが、中には停電実施の通知が数時間前となることや、通知なしで停電となる場合もあります。特に通知なし停電の場合は、いきなりの電力遮断で、機器の故障や製造中商品の処理などに危険が伴う場合があります。こうした状況を受けて、日本国大使館やベトナム日本商工会議所は、ベトナム政府に対し、工業団地への電力供給への配慮、停電・節電の事前通知徹底を要請していますが、停電の頻度は工業団地の整備状況に差が出ているのが現状です。

4. 今後の方針

これらの電力不足に伴う停電は、企業の生産活動、国民の生活だけでなく、海外企業の 投資活動にも大きな影響を与えることから、政府も国を挙げて安定した電力供給に努める としています。そのために、①計画途中の発電所計画の早期履行 ②不稼働発電所(水力、 火力)の早期復旧 ③送配電インフラの整備 ④輸入電力の確保(海外からの送電設備の新 設も含む)が必要とされますが、どれも一朝一夕には叶いません。

新しい発電源の確保や送配電網の再整備等、課題は山積みですが、経済発展を続けるベトナムが電力の安定供給に向け、どのような対応をしていくのか注目です。

タイレポート 「タイの電力事情について」

一昔前のタイでは、停電は日常茶飯事と言われ、日常生活に影響が出ることが多々ありました。しかし、現在は電力インフラが整えられ、バンコクのような都市部では停電が発生することは稀になりました。安定的な電力供給ができるようになったタイでは、近年、再生可能エネルギーによる発電に力を入れており、発電量は年々増加しています。今回はタイの電力事情についてレポートいたします。

1. 日本とタイの電気料金の比較

| | 料金(KWh) | 1ヶ月あたり電気料金 | (参考)水道料金 |
|----|---------|------------|-----------|
| タイ | 18.6円 | 8, 519 円 | 約 1,600 円 |
| 日本 | 31 円 | 14, 195 円 | 6, 196 円 |

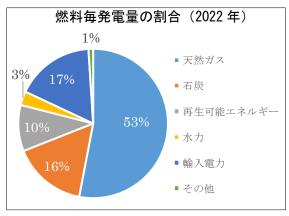
※4 人家族の使用量(電気消費量は 458KW) として試算。

一般家庭におけるタイの電気料金は、日本と比較し、1 KWh(キロワットアワー)の単価が安くなっていますが、物価の差を考慮すると、タイの電気料金は高いと考える人が多くいます。年中気温が高いタイでは、エアコン使用による電力消費量が多く、使用状況によっては日本と変わらない電気料金となります。特に、近年の電気料金の上昇幅は大きく、2022 年 9 月には 18%、2023 年 4 月には 13%引き上げされる等、一般家計における電気料金の負担が大きくなっています。

2. 発電所の使用エネルギーについて

タイの電力はタイ発電公社による国内発電と、IPP(独立系発電事業者)及び輸入による外部からの電力購入によって供給されています。発電シェアは、タイ発電公社による発電が34.5%、外部からの電力購入が65.5%となっています。

タイの発電所に使用されるエネルギーは、 天然ガスによる発電が約50%と最も高く、 化石燃料による発電に大きく依存していま す。しかし、政府の方針により、再生可能



出典: CHANDLER MHM LIMITED

エネルギーによる発電が増加しており、タイのエネルギー事情が変わりつつあります。

3. 再生可能エネルギーについて

タイの再生可能エネルギーによる発電は、電気需要量の約 10%を賄っています。政府は さらに再生可能エネルギーの割合を増やすことを目指し、2037 年には総電気需要量の 34%を目標に設定しています。 再生可能エネルギーの中でも、タイの太陽光発電産業は、東南アジアで最も進んでおり、年々太陽光による発電量も増えています。現在の太陽光発電量は約3,000MW(メガワット)ですが、2037年には約4倍の12,000MWの発電量を目標としています。



出典:タイエネルギー省

また、タイは水上太陽光発電にも 注力しており、タイ東北部にある発 電施設は世界最大規模となっていま す。ダム内に設置された水上太陽光 発電は、水力発電と組み合わせてエ ネルギーを管理することが可能です。 タイ発電公社は、国内9ヶ所のダム に、水上太陽光発電システムの開発 を検討しています。



【ダムに浮かぶ水上太陽光発電施設】出典:タイ発電公社

東南アジアでは日光量が豊富であり、長い冬があるヨーロッパと比較し、太陽光発電に 適している地域であることから、タイの太陽光発電産業は今後も成長していくことが予想 されます。

4. 終わりに

タイでは化石燃料による火力発電 が中心となっており、大気汚染の悪 化が懸念されています。タイ政府は 現状を打破すべく、再生可能エネル ギーによる発電を強化する取り組み を進めています。特に、太陽光発電 の導入には、政府の補助もあり、日 系企業でも工場に太陽光パネルを設 置する先も増加しています。



【大気汚染で霞むバンコクの様子】

タイの電力事情は「電力の安定供給」から、「環境に配慮した発電」といったフェーズ に移っています。今後、タイの電力事情が大きく変わっていくため、それに関連したビジ ネスチャンスも生まれてくるのではないでしょうか。

ASEAN ニューストピックス

<ベトナム>~ベトナム(ホーチミン)の日本人街~

ベトナムには日本人街と呼ばれる場所がいくつかあり、その中でも国内最大の日本人街と して有名なのが、ホーチミン市内1区にある「Le Thanh Ton (レタントン) 通り」です。

約1万人の日本人が暮らすべトナム最大の商業都市・ホーチミン市。その中でも官公庁舎 (市役所)や大聖堂など多くの観光名所を有する1区は経済の中心としても機能しており、その中心部を通るレタントン通り周辺には多くの日系企業が進出しています。そのためレタントン通り沿いには多くの日系飲食店が立ち並び、日系スーパーや日系コンビニエンスストア

では日本の食材も手に入ることから、多くの 日本人が居住しています。近隣には一流百貨店 や一流ホテルなども徒歩圏内にあるため、 現地で暮らす日本人だけでなく、出張者や旅行 客からも人気があり、まるで日本にいるかの ような雰囲気が安心感をもたらします。

皆さまもベトナムへいらした際は「リトル・トーキョー」と言われているLe Thanh Ton エリアに足を伸ばし、異国間の融合を楽しんで みてはいかがでしょうか。



<Le Thanh Ton エリアで営業する日系飲食店>

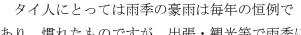
〈タイ〉~雨季の豪雨は要注意!~

常夏の国として知られるタイですが、気候によって、①乾季 (11 月~2月) ②暑季 (3 月~5 月) ③雨季 (6 月~10 月) の 3 つのシーズンに分類されます。

乾季はタイ旅行のベストシーズンと言われ、年中暑いタイでも平均気温 30 度前後と、比較的、涼しく過ごしやすい季節です。一方、暑季は暑さに慣れているタイ人もうだるような暑さで、最高気温が 40 度を超えることも珍しくありません。

そして雨季は、月の半分程度が降水日となる時期です。タイの雨は短時間の集中豪雨とな

ることが多く、一日中雨が続くということは あまりありません。しかし、タイの豪雨は 凄まじく、短時間の雨でも道路が冠水して しますことが多々あります。ひどい時には 数時間で膝まで浸かるほど冠水することが あり、一度冠水してしまうと、水が引くまで 数時間はかかるため、ズボンの裾をまくり、 靴を脱いで歩く人が多く見られます。





<豪雨で冠水した道路(バンコク市内)>

あり、慣れたものですが、出張・観光等で雨季にタイを訪れる際にはご注意ください。

東邦銀行の海外事業に係る連携・業務提携先

弊行では、各種海外の専門家と提携し、会計・税務、国際物流、貿易保険など幅広い分野で お客さまの海外取引を支援しております。

くとうほうグローバル・ネットワーク> 【韓国他アジア新興国】 福島から SBJ銀行(新韓銀行グループ) 世界へ!!



| ご提供サービス | 業務提携先 |
|--------------|---|
| 海外リスクコンサルタント | 東京海上日動火災保険 三井住友海上火災保険 損害保険ジャパン |
| 海外貿易保険 | 日本貿易保険(NEXI) |
| 会計税務コンサルタント | 有限責任監査法人トーマツ デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザリー |
| 海外セキュリティー | ALSOK 福島 セコム |
| 国際物流 | 日本通運 |
| 海外販路拡大 | アリババ Inagora(中国向け) |
| 翻訳・通訳サービス | パソナ |

その他、お客さまのニーズに合わせた、各種専門家のご紹介が可能です。ご要望の際には、 お気軽にご相談ください。